

▼【取り組み紹介】活動を見直す

活動を取り巻く状況は変化する

事業や活動を長年続けるには、定期的に組織の目的や方向性を見直し、軌道修正することが大切です。社会状況や対象者のニーズの変化により、取り組む活動内容も見直す必要があります。

今回は、17年間活動を継続する中で、社会状況の変化にあわせ支援の幅を広げてきた、NPO法人福岡すまいの会理事長の横溝高廣さん(写真

左)、理事の服部広隆さん(写真中央)、理事の吉田鈴子さん(写真右)にお話を伺いました。



【事例】NPO 法人福岡すまいの会の取り組み

変化をとらえ、活動を変えていく

すまいの会が活動を始めた当初は、行政の支援は住居がなければ受けることが難しく、また対象が65歳以上に限定されていました。そのため、ホームレス状態の方への住居の確保と、若い方の就労支援から取り組み始めました。

近年では、生活保護や自立支援の制度が整備され、福岡県内のホームレス者の数は激減しました。しかし、団体にはなお年間300件を超える相談が寄せられます。相談者の多くは、不安定な居住で頼る人がいない生活困窮者です。

例えば、介護施設に入ったり、入院したりする際に必要な身元保証人は、家族が多くの場合想定されています。生活困窮者は、家族や親戚、知人との関係を持っていない場合も多く、支援やサービスを受けることができない状況にあります。



▲団体内での会議の様子。

すまいの会では、この社会状況の変化から活動を見直し、支援対象を生活困窮者に広げました。

活動を見直すタイミング

新しい制度ができると、社会や支援対象者の状況が変わるため、事業の見直しを行う大きなタイミングになります。

すまいの会では、情報共有や相談が活発に行われる環境を大切に、小さなこともその都度検討・判断するようにしています。

「支援対象者にとって必要であればやる」という支援のあり方は、どこまでやるかの判断が難しいため、社会状況をしっかり見定めることと、日々、個別性の高い相談に組織として対応することが重要なのです。



▲最期まで支援した方の盆送りの様子。

【団体紹介】NPO 法人福岡すまいの会

団体名の「すまい」には、路上から家を、というハウジングファーストの意味が込められ、団体の理念の根幹になっています。ホームレス

状態をはじめとする生活困窮者を対象に、住居、就労、生活など、多方面から支援しています。(https://sumainokai.sakura.ne.jp/)

▼団体活動情報

《シャイニングハートしめ》



▲店頭にて、がん検診啓発の様子。

不要になったスニーカーをぜひご提供ください。
生涯学習1号館受付横にボックスを設置しています。

志免町婦人会の環境部会として平成3年からボカシ(肥料)作り、平成7年から廃油石けん作りを始めました。平成14年に婦人会を解散する際、環境部会の活動を残そうと、有志で「エコネットしめ」を設立しました。現在60~80代の会員29名で活動しています。

石けんの材料になる廃油は、一般家庭のごみを減らすことを目的に各家庭から集めています。川に廃油を流さず、さらに廃油石けんの利用を促すことで環境への配慮を啓発しています。また、小学校のチャレンジ広場で紙すき体験の講座を行うなど、町内の施設へ出張も行っています。

そして昨年度は、大同生命の助成金を8万円獲得しました。外部への出張交通費や、材料費などに充て、活動の充実を図っています。

【取材から見たこと】

活動に新たな資金が必要になったとき、皆さんはどうやって集めていますか。上記2団体は、自分たちができる方法を選択し、上手に実行しています。

使い道や目標の金額を決めずに始めると、普段の活動+aでもあるため、ゴールが見えず、

がん検診の普及啓発と受診率を上げることを目的に、健康に役立つ講演会を毎年開催しています。今年で設立6年目となり、20~70代の会員34名が活動中です。

志免町では、国保対象者のがん検診が有料化された頃から、がん検診の受診率が下がっています。他市町村や、国保対象者以外の受診率を調べて、今後は町全体のがん検診の受診率向上や健診の普及啓発について、健康課になお一層協力していきたいと考えています。

また昨年度から、ケニアのスナノミ症予防のため、スニーカーを集めて送る活動を始めました。送料を賄うため、不要品を集めたバザーでは、目標の3万円以上を集めました。今後はさらに会員の声を聞き、活動に反映させていくそうです。

《エコネットしめ》



▲石けんは長年のファンも多く、汚れのひどい雑巾や靴下などにおすすめ!!
役場2Fの生活安全課窓口で販売中です。
新会員も随時募集中です。

負担ばかりが大きくなるかもしれません。

活動に対して具体的に必要な金額を計算し、実行できる方法を選んで、計画を立てて取り組むことが大切です。

活動資金の確保や最新の助成金情報については、まちづくり支援室へお尋ねください。